

## P2-34-9 家庭医による産科診療と ALSO の有用性

恵寿総合病院家庭医療科

宮坂麻由子, 新井隆成, 安田 豊, 高多佑佳

【目的】産科危機と言われる日本の現状において家庭医の産科診療への関わりを期待する地域がある。この研究の目的は日本において実際に産科診療を行っている家庭医の診療行為の安全性と ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics) の有用性について検証することである。【方法】場所は年間分娩件数 300 超, 常勤産婦人科医 3 名と常勤家庭医 3 名 (専攻医を含む) が産科診療を行う地方の基幹病院である。産婦人科の研修を開始した家庭医療専攻医と米国で研修を受けた家庭医療専門医の過去 1 年間の分娩経験について診療録調査を行い, またそれぞれの経験について振り返りを行った。【成績】専攻医は平成 26 年度の 1 年間で, 計 66 件の経陰分娩を担当した。そのうち当直で分娩後大出血や HELLP 症候群も経験した。家庭医療専門医は当直日直で計 21 件の経陰分娩を担当した。内 1 件は胎児遷延除脈による吸引分娩を, 1 件は McRoberts 体位と恥骨上圧迫による肩甲の娩出を必要とした。どの分娩においても母体, 新生児ともに後遺障害を残す有害事象は認められなかった。経験の振り返りでは, これまで経験した産科救急症例は少ないにも関わらず適切に対処できたのは, ALSO で学んだところが大きいという実感であった。また産婦人科医と助産師のほとんどが ALSO を受講しており産科の様々な状況への対処法において共通理解があったため, 家庭医が産科診療を行いやすい環境にあったこともこれに寄与したとの実感であった。【結論】以上の経験は ALSO を利用し家庭医が産婦人科医と協力すれば産科診療は安全に行われることを支持するものである。

## P2-34-10 非産婦人科プライマリ・ケア医に対する低用量ピル普及講習の開発～ALSO から広がる女性医療普及事業～

神戸市立医療センター中央市民病院<sup>1</sup>, 長崎医療センター<sup>2</sup>, 浜松医大<sup>3</sup>, 恵寿総合病院<sup>4</sup>, 島根大<sup>5</sup>, あおもり女性ヘルスケア研究所<sup>6</sup>, 東京ベイ・浦安市川医療センター<sup>7</sup>池田裕美枝<sup>1</sup>, 安日一郎<sup>2</sup>, 鳴本敬一郎<sup>3</sup>, 新井隆成<sup>4</sup>, 加藤一朗<sup>5</sup>, 蓮尾 豊<sup>6</sup>, 伊藤雄二<sup>7</sup>

【背景】ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics) は元々米国家庭医療学会が作成したプロトコルであり日本で行われている ALSO Japan コースにも非産科医師が数多く受講している。受講生の中には産婦人科過疎地域で僻地診療を行っているものもあり, こういった受講生からは産科のみならず婦人科的プライマリケアの基本知識, 手技を得たいという要望があった。リプロダクティブヘルスケアは家庭医に代表される非産婦人科プライマリケア医が担っている国も多いが, 日本ではまだ十分な教育システムが構築されていない。【目的】2015 年日本プライマリケア連合学会の女性の医療・保健委員会と ALSO/BLSO を中心的に提供している産婦人科専門医が連携し, 教育コースの開発を行った。この教育プログラムの有用性を検討する。【方法】女性医療教育コース開発の第 1 歩として 2015 年 11 月に日本プライマリケア連合学会の生涯教育セミナーにおいて, 低用量ピルに関する教育プログラムを実施する。約 30 名の受講生に対してレクチャー, ロールプレイ等のワークショップののち, 診療をサポートする産婦人科専門医とのマッチング, SNS を利用した日常診療サポートを行う。教育プログラムの実施前, 直後, 1 か月後, 3 か月後にメールでのアンケート調査を行なう【結果】月経困難症の診断数, 低用量ピル処方数の変化などを調べる。また行動変容に寄与する因子について質的に分析する。

## P2-35-1 絨毛細胞由来 exosome が内包する small RNA 量に及ぼす toll-like receptor agonist の影響について

北海道大<sup>1</sup>, 長崎大<sup>2</sup>古田伊都子<sup>1</sup>, 山田崇弘<sup>1</sup>, 金内優典<sup>2</sup>, 櫻木範明<sup>1</sup>, 水上尚典<sup>1</sup>

【目的】細胞から分泌される exosome は small RNA を内包しており, 新たな細胞間情報伝達因子の一つと考えられている。我々は妊娠初期において血漿中 exosome 内包 small RNA が増加することを報告してきた。本研究では, 絨毛細胞由来 exosome が内包する small RNA 量に及ぼす toll-like receptor agonist (TLR a) の影響について検討した。【方法】絨毛膜由来細胞 (HTR-8 : H), 絨毛癌細胞 (BeWo : B) に TLR a を添加して 48h 培養し, 培養液から exosome を分離し RNA を抽出した。バイオアナライザで分析を行い, exosome 内包 small RNA の量を解析した。【成績】1) 細胞  $10^5$  個が培養液中に放出した exosome に内包される small RNA (20-250nt) 量は, H では  $15.6 \pm 3.0$  ng, B では  $80.5 \pm 21.5$  ng (mean  $\pm$  SD, n=5), micro RNA (20-40nt) 量は H では  $6.7 \pm 1.7$  ng, B では  $17.8 \pm 2.9$  ng であった。2) TLR3 a (10ug/ml), TLR4 a (10ug/ml) は H, B いずれとも exosome 内包 small RNA 量に影響を与えなかった。3) TLR8 a (5ug/ml) 添加により, H, B の small RNA 量は無添加 control の  $41.0 \pm 4.4\%$  (n=4, p=0.01),  $67.0 \pm 18.0\%$  (n=5, p=0.03), H の micro RNA 量は  $30.4 \pm 2.2\%$  (p=0.01) と有意に低下した。4) TLR9 a (5uM) 添加により H, B の small RNA 量は  $67.5 \pm 12.0\%$  (n=5, p=0.01),  $33.7 \pm 4.7\%$  (n=5, p=0.01), micro RNA 量は  $32.8 \pm 4.9\%$  (p=0.01),  $25.6 \pm 2.6\%$  (p=0.01) と有意に低下した。【結論】TLR8 a, TLR9 a は, 絨毛細胞由来の exosome 内包 micro RNA 量を減少させることが明らかとなった。子宮内感染により exosome を介した局所への情報伝達が障害される可能性が示唆された。